

総論

2025 年度は、第 7 期（5 年間）2 年めの和歌山県 NPO サポートセンターの運営を着実に進めたほか、防災庁発足を念頭に、和歌山県内における「災害中間支援組織」設置に向けた協議への参加、前年比 2 倍に数が増えた「こども食堂・地域食堂」の組織基盤強化の取り組みへの関与など、これまでとは別の角度から地域における県民のみなさんの自発的な活動を応援することができたと考えています。

2024 年度に引き続き、休眠預金等活用事業「資金分配団体」にエントリーしましたがあと一歩及びみませんでした。ただ、申請内容は着実にレベルアップしているとの評価を得ており、2026 年度内の採択に向けた再チャレンジに向けた土台作りは進んでいます。

昨年度掲げた 2 つの重点ポイントに対する自己評価は以下の通りです。

【1】NPO サポートセンターの確実な運営

利用者数は当初設定していた数値目標を達成することができました。また、利用者満足度と講座等受講者満足度も当初目標の 80%を上回り、一定の成果を残したものと考えています。

また 2024 年度から運用を開始した Instagram による情報発信は順調に閲覧者数を伸ばし、情報発信媒体の核のひとつに成長しました。

一方、折からの物価高騰など、センターを取り巻く環境は厳しさを増しています。財政的にも厳しい運営が続いていますが、創意工夫を凝らして、円滑な運営を実現できたと考えています。

【2】「つながり」を意識した取り組みを実施

わかやま SDGs パートナースhip 基金に替わり、「わかやま・しあわせえがおキャンペーン」と題して、和歌山県内の NPO・ボランティア団体の活動を①学んで（知って）応援、②ボランティアとして応援、③寄附の形で応援、の 3 つの応援の形を県民のみなさんにご提案し、NPO・ボランテ

ィア団体との新たなつながりの創出を図りましたが、成果としてはもう一歩に終わりました。

一方、こども食堂の設立・運営応援講座の運営・動画配信など、新たな地域のつながりを生み出す取り組みの応援の取り組みについては一定の成果がみられました。



キャンペーンの一環で実施した交流会

2025 年度個別計画ごとの自己評価

1) 和歌山県 NPO サポートセンター運営

指定管理者第 7 期の 2 年めとなる 2025 年度の NPO サポートセンターの利用者数は 13,832 人（うちオンライン利用 74 人、電話相談件数 606 件）となり、事前に設定していた数値目標 13,500 人を超えることができました。

講座の運営については、NPO サポートセンターだけではなく、他団体との共催や協力をいただくことで内容の拡がりだけではなく、参加の共同呼びかけといった副次的効果を生みました。また可能な範囲

で ZOOM によるハイブリッド開催や YouTube 見逃し配信を実施することで、地理的要件や時間的要件によらない参加を可能としました。

NPO 法人の新設に関する相談もある一方、メンバーの高齢化等による解散の相談が増加傾向にあるだけでなく、適切な役員変更登記が滞っていたことによる解散実務等の停滞がみられ、NPO 法人の運営実務の適正化を日常的に訴求することの重要性を改めて認識しています。NPO サポートセンターでは毎年 3 月の「年度末実務チェックリスト」の配布、和歌

山県 NPO ホームページ「わかやま NPO 広場」での「よくある質問」ページの随時更新などに取り組んでいますが、その存在が十分認識いただけていない状況が続いており、大きな課題となっています。

印刷機や長尺プリンタなどの機器の利用についても順調に推移しましたが、2026年1月末に印刷機が故障し、部品在庫もなく、代替機の導入まで1か月間ご不便をおかけることになりました。3月1日から代替機（写真）による印刷ができるようになっていますが、本格復旧は新年度になってからとなっています。



2025年度から開始したカラー印刷機の印刷代行は数件のご利用があったほか、運営が停滞している団体を対象とした運営再開支援サービスの実証実験を通して把握できた課題などを整理し、2026年度からの本格実施に向けた準備をおこなうことができました。

2) NPOの組織基盤強化支援

和歌山市地域フロンティアセンター利用登録団体有志で構成する「和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会」の運営委員として「和歌山市 NPO・ボランティアフェスタ」の開催を担当したほか、「和歌山市議と NPO・ボランティア団体との円卓会議」も継続して開催。協議会参加団体同士の交流や力量形成に寄与しました。

みその商店街内のわかやま NPO センター法人事務所を活用した「シェアオフィス事業」については、現在3団体のご利用をいただいております、各団体の固定費の圧縮につながっています。

活動の社会的意義は大きいものの、対価性が低く運営基盤強化が困難な団体を対象にした運営実務支援については和歌山県 NPO サポートセンター事業として実施したものと合わせて3団体に対しておこなっています。

和歌山県が特に力を入れて実施している「こども食堂・地域食堂」設立・運営支援に関しては、2025年度も和歌山県こども食堂応援ネットワーク（事務局：和歌山県社会福祉協議会）、認定 NPO 法人全国

こども食堂支援センター・むすびえとの三者連携による運営講座とその動画の YouTube での発信のほか、那賀振興局管内のこども食堂交流会のファシリテート実施など複数の事業に関与し、各食堂運営団体の組織基盤強化や交流に寄与することができました。

3) 様々な主体とのパートナーシップによる公益活動支援・SDGs 達成に向けた取り組み

★休眠預金等活動制度へのエントリー

2024年度に引き続き、休眠預金等活用制度の「資金分配団体」にエントリーしました。応募にあたっては、休眠預金等活用事業の「指定活用団体」である JANPIA（日本民間公益活動連携機構）との対話を重ね、ブラッシュアップを図りましたが、残念ながら2025年度も4~5倍という高倍率の前に、採択はなりませんでした。

一方、審査員講評などを通じて、着実にレベルアップしているとの評があり、2026年度に引き続きチャレンジできるよう準備を進めています。

★企業との連携

子育て世帯の応援をテーマとした近畿労働金庫助成事業「NPO パートナーシップ制度」では、和歌山市内2か所、橋本市、田辺市の4か所でファイナンシャルプランナーを講師に迎えた「子育て世帯のマネープラン講座」を実施しました（写真）。いずれも現地の子育て支援 NPO の協力を得て開催しましたが、特に橋本市と田辺市開催は広報期間の短さや他行事とのバッティングなどの影響で参加者は少なくなっていました。最近は新聞の地方版紙面の縮小等により告知記事掲載のチャンスが大幅に減少していることから、SNS などを活用した新たな広報手法の開発が求められます。



一方、近畿労働金庫社会貢献預金「笑顔プラス」寄附事業として実施している防災・減災の取り組みについては、預金利息の引き上げにより当初想定より寄附金額が増額となったことから、海南・海草エリアに加えて、伊都エリアでも活動を実施。1市4町の社会福祉協議会への防災・減災資材の提供のほか、海南市とかつらぎ町で防災士資格を持つ整理収納アドバイザーによる災害に備える収納講座を開催しました。

第17回花王ハートポケット倶楽部助成事業「わかやまいきいきファンド」はスタートアップ助成(設立2年以内、5万円×4団体)、パワーアップ助成(設立2年超、10万円×3団体)を花王グループ社員のみなさまと協働して実施しました。これまでより3か月前倒しの募集となりましたが、いずれも予定団体数を上回る応募をいただき、第1次審査・第2次審査を経て助成先を決定しています(写真)。



このほか大塚商会「たのくんからの贈り物」事業による会員NPOへの物資提供、明治ホールディングス「選択寄附制度」による県内の障害児支援施設へのお菓子寄贈(県内の市民活動支援機関の協力で県内施設に寄贈)のコーディネートを実施しました。

★行政等との連携

2024年度に引き続き、橋本市の「地域運営組織」づくりを見据えた取り組みや交付金事業への関与をおこないました。また田辺市では「田辺らしい自治のあり方モデル事業」の2番目のモデル地域である上芳養地区におけるワークショップのコーディネーターとして、また補助金事業の審査員として、地域づくり活動に関わりました。

このほか和歌山市・田辺市などで行政職員や市民向け講座の講師を引き続き担当しました。

防災庁設置を見据えて、国が各都道府県に設置を促している「地域災害中間支援組織」構想に和歌山

県(県民生活課・防災企画課・社会福祉課)、和歌山県社会福祉協議会とともに参画し、日常の意見交換会のほか国主催の災害中間支援組織学習会、「ぼうさいこくたい in 新潟」への参加など、和歌山県における最適な組織のあり方などの検討を進めています。



「和歌山市議会とのNPO・ボランティアの円卓会議」では、過去最多の和歌山市議会議員6名の参加をいただき、NPO・ボランティア活動について知っていただくだけでなく、活動を行政施策として展開していくためのヒントなどをいただきました(写真)。

★NPO等との連携

「わかやまSDGsパートナーシップ基金」事業は昨今のSDGsに対する認識の変化や、参加型のNPO支援事業への転換を図るため「わかやま・しあわせえがおキャンペーン」として見直し、①学んで(知って)応援、②ボランティアとして応援、③寄附の形で応援、の3つの応援の形を県民のみなさんにご提案する形としました。

このうち、①についてはNPOの活動について知っていただく交流会を開催し、多くの参加をいただきました。また③についても約20万円のご寄附を原資とした助成事業を実施することができました。一方で、ボランティア募集情報の発信についてはこれといった成果がみえず、大きな課題を残しました。

2025年度は県内NPO法人の周年事業記念講演や職員研修の講師としてはじめて招聘されるなど、県内NPOとの新たな関係も生まれました。

日本NPOセンターと損保ジャパンが共同事務局を担当している「SAVEJAPANプロジェクト」の2024-25シーズンの採択に引き続き、2025-26シーズンも採択を得ることができました。紀美野町「中

田の棚田」をフィールドに複数の環境 NPO を連携させた事業実施を進めています。

全国の NPO 支援機関有志による「NPO・市民活動支援共有ミーティング（通称：わくわく会議）」にも引き続き呼びかけ人として参画。NPO 支援機関同士の交流・学びの場の運営にも関与しました。

また、NPO 法人の実務支援にあたる中間支援組織有志で構成する「全国 NPO 事務支援カンファレンス」では引き続き代表世話役団体として NPO 法人の運営実務能力向上にむけた取り組みに参画しているほか、「NPO で働く人の会」の代表世話役として、NPO で働く人を対象としたメンタルサポートブックの編集に参画。今後も継続して活動することとしています。

4) 情報発信力の強化

わかやま NPO センターのウェブサイトでは、県内 NPO・ボランティア団体のデータベース、イベント情報、助成金情報のデータベースが稼働しており、日常的な更新をおこなっています。先述の「わかやま・しあわせえがおキャンペーン」ではこのデータベースを活用し、ボランティアを募集している団体の情報を出して PR に努めましたが、ボランティアの増加にはつながっていません。

わかやま新報隔週金曜連載 NPO 紙面「わかつく」、Facebook ページ、和歌山県 NPO サポートセンターの SNS など等多様な手段で地域の NPO・ボランティア団体の活動や助成金等の支援事業、今後の地域づくりの参考になりそうな各種情報の発信に努めています。

5) 組織運営

寄附金税制が受けられる認定 NPO 法人として毎事業年度、3,000 円以上のご寄附¹を 100 名以上から頂き続けることが求められていますが、2025 年

度は 2 年連続で 100 組を超えるご協力をいただきました。ご協力をいただきありがとうございます。

組織運営に際しては、毎月 2 回のスタッフミーティングを通じて事業の進捗状況を共有しているほか、毎月 1~2 回の正副理事長によるミーティングでの進捗管理、そして偶数月に理事会を開催し、事業進捗の確認だけでなく、和歌山県内の NPO・ボランティア団体を取り巻く状況の把握や活性化に向けた議論を行っています。

さらに、和歌山県との間で締結している「人権尊重のまちづくり協定」に基づき、人権研修の実施、人権に関するトピックスを職員内で共有するなどの取り組みを継続しました。

【ご参考】

※ わかやま NPO センターが連携している県内の NPO 支援機関

- 和歌山市地域フロンティアセンター
- 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会
- 橋本市市民活動サポートセンター
- 田辺市市民活動センター
- 新宮市ボランティア・市民活動センター

※ わかやま NPO センターが参加している主な県外の NPO 支援ネットワーク

- 日本 NPO センター CEO 会議
- NPO・市民活動支援共有ミーティング（通称「わくわく会議」）
- 近畿労働金庫 NPO パートナースHIP制度・近畿圏 NPO 支援センター連絡会議
- 関西 NPO 支援センターネットワーク
- 全国 NPO 事務支援カンファレンス
- NPO で働く人の会（NPO 等の職員の互助的活動をおこなう団体）
- NPO 法人会計基準協議会
- フィランソロピー・CSR リンクアップフォーラム（在阪企業・NPO 等のネットワーク）

¹ わかやま NPO センターの場合は、寄附金に加え、正会員会費 2 口目以降と賛助会員会費 3 口以上を入金いただいた方も寄附金税制対象となる入金として取り扱いができます

活動のあしあと

わかやま NPO センターの役職員が関係・参加した主なイベント・取り組みを掲載しています。

4月

- ・ 3日 わくわく会議、NPO 会計税務専門家ネットワーク報告会
- ・ 7日 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会
- ・ 11日 田辺・上芳養向上委員会
- ・ 22日 理事会

5月

- ・ 17日 岩出市成人学級 講師
- ・ 19日 田辺・上芳養向上委員会
- ・ 20日 橋本市交付金審査会
- ・ 21日 和歌山市職員研修
- ・ 24日 わかやま NPO センター総会
- ・ 29日 和歌山市協働推進委員会

6月

- ・ 2日 和歌山市 NPO ボランティア推進協議会
- ・ 6日 近畿労働金庫 笑顔プラス寄附金贈呈式
NPO 事務支援カンファレンス総会
- ・ 24日 理事会
- ・ 26日 和歌山信愛大学ゲスト講義
- ・ 28日 SAVEJAPAN プロジェクト（紀美野町）

7月

- ・ 11日 和歌山市子ども食堂連絡協議会交流会
- ・ 15日 橋本市交付金審査会
- ・ 19日 近畿労働金庫 NPO パートナーシップ制度 マネープラン講座

8月

- ・ 4日 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会
- ・ 5日 和歌山市協働推進委員会
- ・ 7日 和歌山市協働推進研修
- ・ 26日 理事会
- ・ 27日 田辺・上芳養向上委員会

9月

- ・ 1日 近畿労働金庫 NPO パートナーシップ制度 マネープラン講座
- ・ 5日 和歌山市労働者福祉協議会 講演会
- ・ 7日 ぼうさいこくたい in 新潟

10月

- ・ 2日 わくわく会議

- ・ 6日 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会
- ・ 7日 和歌山市協働推進委員会
- ・ 18日 和歌山市 NPO・ボランティアフェスタ
- ・ 21日 田辺市補助金審査
- ・ 28日 理事会

11月

- ・ 6日 田辺・上芳養向上委員会
- ・ 9日 よつ葉福祉会 20周年記念式典・記念講演
- ・ 13日 SAVEJAPAN プロジェクト（紀美野町）
- ・ 22日 NPO・ボランティア交流会
- ・ 26日・27日 こども食堂運営支援講座
- ・ 29日 労働者福祉まつり出展

12月

- ・ 3日 こども食堂運営支援講座
- ・ 6日 ろうきん笑顔プラス 防災講座（かつらぎ町）
- ・ 7日・17日 近畿労働金庫 NPO パートナーシップ制度 マネープラン講座
- ・ 13日 女性起業家シンポジウム
- ・ 17日 和歌山市協働推進委員会
- ・ 20日 おもしろ環境まつり（海南市）
- ・ 22日 田辺・上芳養向上委員会

1月

- ・ 24日 和歌山市議と NPO・ボランティア円卓会議
- ・ 25日 県災害ボランティアセンター広域訓練（日高川町）

2月

- ・ 10日 那賀振興局 こども食堂交流会
- ・ 16日 NPO 法人ホッピング職員研修
- ・ 17日 人権研修
- ・ 19日 田辺・上芳養向上委員会
- ・ 24日 理事会
- ・ 25日 田辺市職員研修・和歌山市協働推進委員会
- ・ 27日 NPO で働く人の会オンラインシンポ（岡山）

3月

- ・ 13日 橋本市交付金事業報告会
- ・ 20日 近畿労働金庫 NPO パートナーシップ制度全体シンポジウム
- ・ 25日 基幹相談支援センターにしむろ講座
- ・ 26日 田辺・上芳養向上委員会